

# 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

<b>団 体 名</b>	スポーツ GOMI 拾い in おたる北運河実行委員会			
<b>事 業 名</b>	スポーツ GOMI 拾い in おたる北運河			
<b>実施期間</b>	平成30年8月5日 10:00～13:30			
<b>事業の目的及び期待する効果</b>	スポーツ GOMI 拾いは、ゴミ拾いにルールを定めることで面倒なゴミ拾いを楽しく大勢でできるよう工夫されたユニークな取組である。幼少期からゴミ拾い等の環境活動に参加した人は、環境意識の高い大人になるというエビデンスがあることから、幼い子供がいる家族や小中学生に参加を促すことで、環境意識の高い小樽っ子が育成される。環境教育の他に、北運河の歴史や文化を紹介することで、市民が北運河を訪れる機会を増やし、さらに、昼食において小樽産の魚介類を提供することで、地産地消に興味を持ってもらい、小樽産魚介類の消費拡大に繋げることができる。			
<b>実施額</b>	事業費	315,013 円	助成額	292,022 円
<b>事業内容</b>	<p>(1)スポーツ GOMI 拾い大会の実施                      スポーツGOMI拾いによる北運河・手宮地区の清掃活動。                      会 場:運河公園(小樽市色内3町目6)                      参加人数:67名、参加チーム数:15                      当日の流れ                      10:00～10:20 開会式／ルール説明                      10:20～10:30 作戦タイム                      10:30～11:30 競技                      11:30～12:00 ゴミの計量／集計                      12:00～12:15 表彰式／閉会式                      12:30～13:30 おたる案内人と歴史を学ぼう(事前申込者のみ) 30分コース</p> <p>(2)小樽産海産物の提供                      地産地消を推進する目的で参加者全員に小樽産たこ刺しを提供。</p> <p>(3)おたる案内人による北運河歴史ガイドの実施                      希望者に対して約1時間のコースで北運河エリアを歴史散策。                      参加人数:14名、おたる案内人:3名                      3班に分かれ、コースは旧手宮線、旧日本郵(株)小樽支店、北運河を通り、大正末期から昭和初期にかけて活躍した「鯿」や、旧手宮線に沿って建てられた「倉庫群」、日本初のコンクリート製防波堤を建設した「廣井勇」と後継者「伊藤長右衛門」、運河公園の休憩棟に見られる「木骨石造」について、おたる案内人の説明がありました。</p>			

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

## ○事業の日程について

2 / 2

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
8月5日	スポーツ GOMI 拾い in おたる北運河	200 人	67 人
8月5日	おたる案内人北運河歴史散策	—	14 人

## ○事業評価について

### 1. 事業の目的の達成度

#### (1) スポーツ GOMI 拾い in おたる北運河について

小樽市内の全小中学校に対して告知をすべく校長会を通じて依頼。また、市内の幼稚園には全児童にチラシを配布したが、北稜中学校、松ヶ枝中学校2校生徒の参加に留まったため、目標には届きませんでした。多数の小中学生が参加した潮祭りの翌週であったことも影響していたと推察します。

#### (2) 小樽産海産物の提供について

参加者全員に小樽産たこ刺しを提供したところ、男子中学生を中心に「美味しい！」と言って食べていただきました。ガイドブックにも、魚組、鱗友朝市、食堂を紹介。裏表紙には小樽産魚介類のレシピを掲載しましたので、小樽産海産物に興味を持っていただける十分な施策が打てたように思います。

#### (3) おたる案内人による北運河歴史ガイドの実施

競技終了後に設定したことや暑さもあってせいか、想定よりも少ない参加者でした。しかしながら、手稲区から参加した親子や参加者の皆さんは一律に満足されていたように思います。北運河地区の美化と歴史散策を合わせたイベントは、市民の環境意識の向上やまちへの愛着を育む活動として拡大すべきと考えます。

### 2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

下記アンケート結果の通り、参加者からは高い満足度が得られました。手宮地区への周知については、連合町内会役員会を通じて各町内会長を通じて実施。連合町内会長荒谷さんが当日現地を訪れ、励ましのお言葉をいただきました。残念ながら、連日の猛暑のせいか高齢者の参加は叶いませんでした。

### 3. 今後の事業について

スポーツ GOMI 拾いは、一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ代表の馬見塚健一氏が2008年に発案して以来、これまでに全国でおよそ4万人が参加するソーシャルスポーツとして定着しています。いまでは、「スポ GOMI」の名称で、毎週どこかのマチで開催されるイベントに成長。昨年から2020年東京オリパラ実行委員会と連携して開催することもあり、日本発祥のスポーツとして海外にも発信されています。ワールドカップブラジル大会、ロシア大会では、会場のゴミを拾うサポーターの姿を賞賛する各国の報道からも、日本人が持つ「感謝・礼儀」などの文化が尊ばれるようになっていることから益々の発展が期待されています。

今回のイベントは、歴史的建造物が残る北運河地区を市民が清掃することで観光客に対して心地よい空間を与えること、そしておたる案内人の力を借りて、市民がこの地区の歴史に興味を持ってもらうこと、さらに、小樽市水産業の拠点として機能する地域をあることを知ってもらうとともに、小樽産魚介類を味わってもらうことにありました。

参加者アンケートからは、来年も参加したいという声が全員から寄せられたことから、イベントの趣旨が伝わり、楽しんでいただけたようです。アンケート結果をもとに来年は改善点を修正して臨みたいと考えています。

2014年以来、二度目のスポーツ GOMI 拾いを開催して、スタッフ目線からも反省すべき点がいくつか見つかりましたので下記に記載します。

#### (1) 時期の問題

潮祭りには市内の学生が練りこみに動員されており、翌週も続けて行事に参加させるにはハードルが高い。

#### (2) プロモーションの問題

校長会などを通じて、市内小中学校に周知を図ったが、各校でどの程度周知させていたかは不明。松ヶ枝中、北稜中の2校しか参加しなかったことは反省点であり、プロモーションの方法を再検討する必要がある。

#### (3) スタッフの問題

安全管理を行うスタッフを競技エリア要所に配置していたが、範囲に対する人員が不足していたように感じた。来年度以降も事故防止を強化したい。

#### (4) プログラムの問題

競技と歴史散策を続けて行うことで昼食の時間がなくなってしまうことや、午後から予定を入れている参加者が多く、歴史散策の参加者が少なかった。

以上を踏まえて、来年度以降のスポ GOMI については、再構築して臨みたいと考えています。

### 4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等